

特集「新興・再興感染症と感染症対策」によせて

澤 洋 文

(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態・診断部門)

世界保健機関 (World Health Organization ; WHO) から 2014 年 5 月に報告された資料によると (<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs310/en/>), 2012 年に世界で死亡した総数は 5,600 万人で死因の第 1 位は虚血性心疾患 (740 万人) ですが, 第 4 位が下気道呼吸器感染症 (310 万人), 第 6 位が HIV/AIDS (150 万人) と下痢性疾患 (150 万人) です。医療技術が進歩を遂げている現代でも, 感染症はいまだに主要な死亡原因の一つです。更に, そのみならず感染症は高度に国際化された現代社会においては国境を越えた公衆衛生上の重要な問題として認識されています。1997 年の香港で発生した高病原性鳥インフルエンザ A (H5N1), 2003 年に中国から起こった重症急性呼吸器症候群 (SARS), 2009 年にメキシコに端を発したパンデミックインフルエンザ (H1N1), 2011 年に中国で見つかった重症熱性血小板減少症候群 (SFTS), 2012 年に中東で起こった中東呼吸器症候群 (MERS), 2013 年の中国での鳥インフルエンザ A (H7N9), そして 2014 年の西アフリカでのエボラ熱など枚挙に暇がありません。これらの感染症は新興・再興感染症と呼ばれ, 国際社会はその対策に特別の関心を払っています。

Stephen S. Morse は 1995 年の『Emerging Infectious Diseases』という雑誌の創刊号の「Factors in the Emergence of Infectious Diseases」という論文の中で, 新興感染症 (emerging disease) を「新規に出現した, もしくは以前から存在していたが, 急速に罹患率や出現範囲を拡大した感染症」と定義しています。また, 再興感染症 (re-emerging disease) は「出現頻度が減少し制御されていたが, 再度公衆衛生上の問題となった感染症」と考えられています。新興・再興感染症は, その疾病の犠牲となる症例の存在という直接的な影響だけでなく, 経済影響や社会不安など間接的に国際社会全体に大きな影響を与えることも重要な問題となっています。CEDA (Committee for Economic Development of Australia) の報告によると, 前述したエボラ熱については 2014 年から 2015 年の終わりまでに 320 億米ドル (3.8 兆円) 以上の資金が投入されることが試算され, 2003 年の SARS の際には約 400 億米ドル (4.7 兆円) の経済的損失が生じたとされています。平成 26 年度のわが国の一般会計予算が約 95.9 兆円であることから, 単一疾患の対処にわが国の一般会計予算の約 5% を投じる必要性があったことになります。

現在の国際社会は経済, 社会, 政治, 技術, 環境の側面において従来の境界が希薄になるグローバル化が進んでいます。人および物資の移動, 情報伝達の高度化により新興・再興感染症の社会への影響はより大きくなっており, このような状況の中で, 科学的根拠に基づいた有用な感染症対策を提示し, 実行することは国際社会における喫緊の課題です。本特集においてはウイルス, リケッチア, 細菌, 原虫による感染症, 感染症のベクターおよび感染症対策に関して, 各分野の専門家の方々に御執筆いただいております。本特集により, 読者の方々に新興・再興感染症および感染症対策に関して最新の知見をお届けできると確信しております。

最後になりましたが, 非常に御多忙な中お時間を割いて御執筆いただきました方々, 本特集を出版するにあたりお世話になりました方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。